

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成16年10月7日(2004.10.7)

【公表番号】特表2000-501133(P2000-501133A)

【公表日】平成12年2月2日(2000.2.2)

【出願番号】特願平9-520381

【国際特許分類第7版】

C 0 8 L 101/00

C 0 8 L 23/00

// C 0 8 G 85/00

C 0 8 L 67/00

C 0 8 L 77/00

C 0 8 L 79/02

【F I】

C 0 8 L 101/00

C 0 8 L 23/00

C 0 8 G 85/00

C 0 8 L 67/00

C 0 8 L 77/00

C 0 8 L 79/02

【手続補正書】

【提出日】平成15年9月26日(2003.9.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

26

平成15年9月26日



特許庁長官 今井 康夫 殿

1. 事件の表示

平成9年特許願第520381号

PCT/NL96/00451

2. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 オランダ国, 6411 ティーイー ヘーレン,
ヘット オーバールーン 1

名称 ディーエスエム エヌ. ブイ.

3. 代理人

〒105-0003

住所 東京都港区西新橋 2-19-2. 西新橋YSビル3階

電話 03 (5401) 2521

氏名 (8554) 弁理士 松井 光夫



4. 補正により増加する請求項の数 なし

5. 補正対象書類名 特許法第184条の5第1項の規定による書面

6. 補正対象項目名 (1) 特許請求の範囲

7. 補正の内容 別紙の通り、特許請求の範囲を訂正致します。



特許請求の範囲

1. プラスチックおよび添加剤を含む組成物を溶融混合により得る方法において、添加剤がポリアルキレンイミンまたはポリエステルに基づくデンドリマーの群から選択されるデンドリマー中に存在し、該デンドリマーは官能性の末端基を有し、該官能性の末端基は、少なくとも部分的に変性基を備え、この変性基はプラスチックと相溶性であることを特徴とする方法。

2. ポリアルキレンイミンデンドリマーが、ポリプロピレンイミンデンドリマーである請求項1記載の方法。

3. デンドリマーが、第3またはそれ以上の世代のものである請求項1～2のいずれか1項記載の方法。

4. デンドリマーの末端基の少なくとも50%が変性基を備える請求項1～3のいずれか1項記載の方法。

5. 変性基が脂肪酸残基である請求項1～4のいずれか1項記載の方法。

6. 脂肪酸残基が、12～30個の炭素原子を含む請求項5記載の方法。

7. プラスチックが、ポリオレフィンホモポリマーまたは
コポリマーである請求項 1 ～ 6 のいずれか 1 項記載の方法。

8. ポリオレフィンが、ポリエチレンおよび／またはポリ
プロピレンである請求項 7 記載の方法。

9. 添加剤が染料である請求項 1 ～ 8 のいずれか 1 項記載
の方法。

10. 請求項 1 ～ 9 のいずれか 1 項記載の方法により製造さ
れた組成物。

11. 熔融混合により得られた、プラスチック及び添加剤を
含む組成物中で添加剤を用いる方法において、添加剤がポ
リアルキレンイミンまたはポリエステルに基づくデンドリ
マーの群から選択されるデンドリマー中に存在し、該デ
ンドリマーは官能性の末端基を有し、該官能性の末端基は、
少なくとも部分的に変性基を備え、この変性基はプラスチ
ックと相溶性であることを特徴とする方法。